

正誤表

箇所	修正後	修正前
P32 2) 研究成果 1.	雑草の種、密度、大きさにはばらつきがあり、風乾重で <u>67</u> ～ <u>569</u> g/m ² であった。 ※	雑草の種、密度、大きさにはばらつきがあり、風乾重で <u>983</u> ～ <u>1989</u> g/m ² であった（表1）。
P32（ページ下端の枠内）	調査した畦畔・法面の雑草の風乾物重は、最大で 569 g/m ²	調査した畦畔・法面の雑草の風乾物重は、 <u>表1、表2の最大値</u> で、 <u>569</u> g/m ²
P32（ページ下端の枠内）	なお、添加に利用した焼却残渣の放射性 Cs 濃度は、12,867 Bq/kg であり、灰 1 g 中の放射性物質量は <u>13</u> Bq。	なお、添加に利用した焼却残渣の放射性 Cs 濃度は、12,867 Bq/kg であり、灰 1 g 中の放射性物質量は <u>14</u> Bq。
P33 表1	雑草の風乾重の単位 g/ <u>4m</u> ²	雑草の風乾重の単位 g/ <u>m</u> ²

下線部が修正箇所

※ 表1、表2に結果を示した2件の調査から、修正後の面積あたり雑草風乾重の最小値、最大値を算出している（表2には面積当たりの雑草風乾重は記載なし）。

令和5年3月16日修正